

議案・陳情・意見書に対する賛否状況(一部) 賛成○ 反対×

議案	共産	市民	公明	改フ	みどり
平成24年度青梅市 一般会計歳入歳出決算	×	○	○	○	×
平成24年度青梅市 国民健康保険特別会計歳入歳出決算	×	○	○	○	○
平成24年度青梅市 収益事業特別会計歳入歳出決算	×	○	○	○	○
平成24年度青梅市 下水道事業特別会計歳入歳出決算	○	○	○	○	○
平成24年度青梅市 後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算	×	○	○	○	○
平成24年度青梅市 介護保険特別会計歳入歳出決算	×	○	○	○	○
陳情					
政務活動費による図書購入に関し、 金額制限を設ける陳情	×	×	×	×	×
成木川及び北小曾木川の環境保全に 関する陳情	○	○	○	○	○
「青梅市子ども家庭支援センター」に 関する陳情(趣旨採択)	○	○	○	○	○
意見書					
垂直離着陸輸送機CV22オスプレイの横田 基地への配備検討の撤回を求める意見書	○	○	○	○	○
圏央道青梅インターチェンジ北側地域におけ る物流拠点の早期実現を求める意見書(※)	×	○	○	○	×
※東京都との調整がつかず、既に多額の支出が行われ、これから幾らかかるかも分からない青梅インター周辺開発は見直すべき。農地の保全・活用を行うとともに、地域に根差した中小企業を応援すべきという立場から反対。					
地方税財源の充実確保を求める意見書(※)	×	○	○	○	○
※中小零細企業の税負担が重くなるうえ、消費税増税を前提としていることから反対。					



藤野ひろえ 議員

一般質問

1. 住民の生活と営業を守るために消費税増税は中止の声を

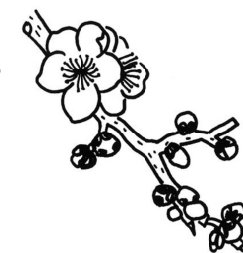
- 質問**
- 景気は良くなっているか。市民の暮らしや中小企業の実態はどうか。
 - 消費税が8%、10%と増税されたら、市財政、中小企業、住民の暮らしに大打撃になるのではと考えるがどうか。
 - 増税を今やるべきではない。国に中止の意見をあげるよう求める。
- 答弁**
- 景気は持ち直している。消費税が導入されて相等分が年金、医療、高齢者のために一定の役割を果たしている。
 - 今後の少子高齢化社会の社会保障充実、財政健全化のためと用途明確なので、国に中止の意見はあげない。

2. 生活保護基準切り下げの影響と、制度改悪反対を

- 質問**
- 受給世帯の各減免制度の影響や、申請・受給しやすい環境・対応を。どの位の減額になったのか。
 - 水際作戦の強化など、国に対し制度改悪をしないよう求める。
- 答弁**
- 基準改定に伴い、生活保護が廃止になった世帯はないことから、特に影響はなかったと認識している。
 - 40代夫婦小中1人の4人家族で-6,370円、60代夫婦で-1,330円と減額。
 - 今後の制度改正について示されていないので、国に要請しない。

3. 梅の里再生計画の推進について

- 質問**
- PPV発生から4年経過し、2万64本伐採された。感染樹の未伐採対策は、強制的でなく合意納得の上に。
 - 25年から32年までの再生計画の具体的対策。梅の里再生推進ニュースの発行を。
- 答弁**
- 未伐採の方へは、説明、納得の上対応する。
 - 農林課、商工観光課、公園緑地課でそれぞれ対応する。
 - 広報おうめ、ホームページなどで情報提供しているので、梅の里再生推進ニュースの発行は考えていない。



2013年
9月議会

障がい者団体補助金カット、待機児は184人も 不要不急の道路建設・青梅インター周辺開発より 福祉・子育て支援・コミュニティバスを



日本共産党

☆増え続ける生活保護

一人のケースワーカーが133世帯も担当している

2012（平成24）年度の生活保護受給状況は、1,770世帯、2,558人と増え続けています。ケースワーカーひとりが担当する世帯は133世帯にもなっており、法定標準数の80世帯とかけ離れています。これでは就労支援などが進みません。また、若い世代の受給者が増えていることに対しては、ひきこもりの若者の支援を強化すべきです。

☆教育費の保護者負担軽減に手をつけず

子どもの貧困対策法が制定されるほどに子どもの貧困が重大な問題となっています。就学援助について、青梅市は生活保護基準の1.0倍であり、受給することが厳しい状態です。他の自治体では1.3倍というところもあり拡充が求められます。また、修学旅行や通学費の補助拡充など、他市では当たり前の市民要求に応えていないのは問題です。

何でも相談、
ご意見、ご要望は

お気軽にご連絡を



☆暗礁に乗り上げた青梅インター周辺開発に 莫大な税金を投入 貴重な農地を守るべき

青梅インター周辺に物流拠点をつくらうとしてきましたが、農業目的以外の土地利用が制限されている問題などが解決されないまま進展しない状況が続いています。既に2,000万円以上の支出が行われ、総事業費が幾らになるか示されていません。青梅インター周辺開発は見直して、農業の保全・活用をはかるべきです。

☆千ヶ瀬バイパス延伸などは進めても、 東青梅駅北口エレベーター設置は時期さえ不明確

千ヶ瀬バイパス延伸、根ヶ布長淵線など不要不急の幹線道路整備に約3億円使い2015年度までに約9億円も支出する計画が進められています。一方で長年の市民要求である東青梅駅北口のエレベーターについては設置時期さえ明確にされないまま。市民の切実な願いを最優先にすべきです。

☆ブラック企業がはびこる中、

わずか月1回の労働相談 しかも平日の午前中だけ月1回行っている労働相談の内容は、解雇や雇い止め・休職といった深刻な内容なのに、毎月第3水曜日の午前中だけしかやっていません。市民が仕事を休まずに相談できるよう夜間や休日にも実施すべきです。現在は社会保険労務士が相談員ですが、労働裁判に詳しい弁護士にも協力を求めるべきです。

☆福祉切り捨ての行財政改革

身体障害者福祉協会補助金、青梅手をつなぐ親の会補助金、聴覚障害者協会補助金、合わせて25万円の補助金が廃止されました。他の障がい者施策を充実させているという答弁でしたが、それならばなおのこと補助金を廃止する理由はありません。

☆待機児が184人も！

保育、子育て支援を充実させ児童館を

保育園の待機児童について、2012（平成24）年度末の3月の待機児童数は184人にもものぼりました。保護者と子どもたちの期待に応えていません。保育園の増改築で定員を増やすやり方では一人ひとりの子どもたちに目が行き届かなくなるので、待機児童が多い東部地域等に保育園を増設する必要があります。また、児童館建設を検討しないことは問題です。

☆コミュニティバス、

デマンド交通導入に背を向けた交通政策

青梅市公共交通協議会の議論では、既存バス路線の利用促進や、バス路線見直し、サイクル&バスライド（自転車からバス停まで行き、バスに乗り換えて目的地まで向かう移動方法）くらいしか話し合われず、高齢の方や体の不自由な方のニーズに応えきれていません。また既存バス路線への莫大な公共負担も問題です。

2012年度青梅市一般会計決算は、9月30日の最終日に賛成多数で可決されました。日本共産党青梅市議団は、福祉、暮らし、まちづくりなどの問題点を指摘しました。田中みずほ議員が反対討論を行いましたので要旨をお知らせします。